

将来構想試案 骨子案

2020. 11. 17兵庫県将来構想研究会

I 策定趣旨

1 将来構想試案の位置づけ

- ・本研究会による2050年を展望した兵庫県の将来構想の試案として、これまでの検討成果を取りまとめて提示するものである。
- ・兵庫県は、この試案をたたき台として、新全県ビジョン案の起草に着手する。また、この試案を参考に新地域ビジョンの検討を進める。

2 将来構想試案のポイント

新全県ビジョンを検討していく上での素材として以下の点を重視して取りまとめた。

- ①県民とともに兵庫のめざす将来像の議論を深めていくにあたり、考えられる未来シナリオを幅広く提示すること
- ②既存の枠組みの中で従来の延長線上にある未来の姿を描くのではなく、できる限り大胆なシナリオを示すこと。新しい視点と発想で未来をデザインしていくことがビジョンづくりに求められる役割である。
- ③未来シナリオは無数に想定し得るため、相反するようなシナリオを並べて示した部分もある。
- ④「日本の縮図」と言われる兵庫県の将来構想であることから、大都市から地方都市、多自然地域まで多様な地域の特性を踏まえた幅広いシナリオを提示すること

II 大潮流

<不安を生む潮流>

1 縮む日本 ～人口減少・超高齢化

(1) 総人口の減少

日本は本格的な人口減少時代に入った。人口の維持に必要な水準を大きく下回る出生率は回復の兆しがなく、今後長年にわたって人口が減り続ける可能性が高い。

- ・本県の人口は長期的に減り続ける見込み（2050年には423万人、2100年には215万人）
- ・人口減少の主要因は少子化。合計特殊出生率が2.07を下回る限り人口は減り続ける。

(2) 人口の偏在化

地球規模で進む「都市化」は、日本でも今なお進行中である。総人口が減る日本では、都市化の半面として地方の「無人化」が今後進む可能性が高い。

- ・日本全体では東京一極集中が進行（大阪・名古屋の求心力が低下し、東京の一人勝ち）
- ・県内でも尼崎から姫路にかけての臨海部への人口集中が更に進む可能性が高い。
- ・多自然地域では、農山漁村集落の小規模化から無人化へと進んでいく可能性がある。

(3) 超高齢化

少子化と平均寿命の延伸により人口のますます多くを高齢者が占めるようになる。社会保障制度や社会基盤の維持が更に難しくなり、大きな変革を迫られる。

- ・人口が高齢化し、2050年には65歳以上が人口の4割を占める。
- ・県民の寿命は、医療技術の進展と健康志向の高まりで更に伸びる可能性が高い。
- ・65歳以上を「高齢者」とする定義は時代に合わなくなっている。

<人口減少・超高齢化がもたらす幅広い影響>

①地域の衰退 ～地域空間の質が低下、つながりも希薄化

- ・都市部でオールドニュータウン化が進む一方、地方部では過疎化が更に進行
- ・高齢者の生活格差が拡大（買い物難民、医療・福祉サービスへのアクセス困難等）
- ・空き家・空き地が増加、耕作放棄地も拡大。治安、景観、農業などに悪影響
- ・貧困や引きこもりなどの社会問題が深刻化
- ・祭りや伝統を受け継ぐ地域コミュニティが消滅、まちづくりを担う主体が不在

②地域経済の低迷 ～人手不足が広がり、産業の活力が低下

- ・人口減少により人手不足が拡大し、事業の縮小や後継者不足による廃業等が拡大
- ・人口減少や需要の飽和によって消費が落ち込み、業績が悪化
- ・産業の地域格差が拡大（農林水産業の行き詰まりによる地域経済の停滞等）
- ・地価が下がり、不動産の価値が低落。資産デフレが常態化

③社会保障制度の不安定化 ～寿命が伸びる一方、老後の生活不安は拡大

- ・給付の抑制も負担の増額も進まず、社会保障制度が危機的状況に
- ・年金制度の安定的・持続的運営が困難になり、老後の安心感が揺らぐ
- ・超高齢化への対応に追われ、次世代育成支援が後手に回る悪循環が拡大
- ・社会保障の所得再分配機能が弱まり、格差が拡大

④社会基盤の荒廃 ～全ての社会基盤を維持し続けることが困難に

- ・社会基盤の老朽化が広がり、維持更新が追い付かず、事故が増加
- ・社会基盤の老朽化で災害に対して脆弱に。破損しても、全てを復旧することは困難に
- ・維持更新経費が増大し、新規整備は停滞。施設の集約化や撤去が進む

2 自然の脅威 ～気候変動と災害の危機

(1) 気候変動

地球全体が暑くなり、異常気象が常態化する。気候変動は、人類の生存への最大のリスクとなる可能性がある。兵庫は亜熱帯化し、県民の暮らしぶりが変わる。

- ・温室効果ガス濃度の上昇により21世紀末までに最大で4.8℃上昇する可能性がある。
- ・農林水産業の基盤となる気候・自然環境が変化（適合品種や魚種の変更が不可避）
- ・健康リスクが増大（熱中症患者の増加、亜熱帯化による感染症リスクの拡大等）

(2) 災害の世紀

近い将来南海トラフ地震が発生する可能性がある。気候変動により風水害が激甚化する傾向にあり、未知の感染症の大流行に再び見舞われる可能性もある。

- ・南海トラフ地震が今後30年以内に70～80%の確率で発生するとされている。
- ・短時間大雨が増加傾向。海面水位も上昇傾向。風水害が更に激甚化するおそれがある。
- ・沿岸部の産業集積地域の災害リスクが高まり、観光産業へのマイナス影響も拡大

<希望を生む潮流>

3 テクノロジーの進化

(1) Society5.0の時代へ

ICTの更なる進化により、現代のSociety4.0（情報社会）は、現実空間と仮想空間が融合するSociety5.0へ移行し、一人ひとりに最適化された暮らしが実現する。

- ・ICTの進化により情報社会とは次元の異なる新たな社会（Society5.0）に移行する。
- ・Society5.0では現実空間と仮想空間が融合する中で経済発展と社会的課題の解決が両立

(2) 未来のテクノロジー

完全自動運転の普及。人の感情を理解し、創造力すら発揮するAIの出現。ゲノム編集による寿命の延伸。未来のテクノロジーは社会のあり様を激変させるだろう。

- ・ICTと生命工学を中心に社会を変えるテクノロジーが次々と生み出され実装されていく。
- ・移動、医療、食料生産、再生可能エネルギーなどの分野で特に大きな変化が見込まれる。

4 世界の成長と一体化

(1) 大きくなる世界

世界に目を向ければ、アジア、アフリカを中心に人口も経済もまだまだ成長の見込まれる国々がある。日本人が世界中に活躍の舞台を求めていく時代になるだろう。

- ・世界の人口はアジア、アフリカの成長で当面増加（2020年78億人→2050年97億人）
- ・世界経済は巨大企業と巨大都市圏が成長のエンジンとなる中、米中2強体制が強化

(2) 一つになる世界

インターネットで世界が一つに結ばれ、情報の流通が勢いを増す。その中でも人の移動は減らず、むしろ「本物」に会うための移動が一層活発になる可能性がある。

- ・スマートフォンが世界に行き渡り、全ての人々がインターネットで結ばれる時代が到来
- ・長期的には国境を越える人の移動が活発化。世界は不可逆的に混ぜ合わさっていく。

5 価値観と行動の変化

(1) サステナブルな価値観の台頭

将来世代や地球の未来に対する責任感を背景に、SDGsが今や世界の共通言語となったように、持続可能性を重視する価値観やライフスタイルが広がりを見せている。

- ・環境、社会、企業統治に配慮している企業を重視するESG投資の拡大が続いている。
- ・「エコ」「ロハス」「エシカル消費」に象徴されるライフスタイルの実践が広がっている。

(2) 所有から利用へ

ICTの発展でインターネットを通じたマッチングが容易になったことなどにより、シェアリングエコノミーの拡大など、所有から利用への行動変化が加速している。

- ・シェアリングエコノミーが広がり、対象がモノだけでなく、スペース、移動などへ拡大
- ・必要なときに必要な人材や設備を利用するクラウドソーシングやファブレス化が進展

(3) 固定から流動へ

ICTの発達や産業構造の変化、人生100年時代の到来に伴い、一つの場所に住み、一つの企業で働き続けるこれまでの生き方、働き方が崩れ、人の流動化が進む。

- ・テレワークの浸透により、働く場所・住む場所の制約が消えつつある。
- ・「短くなる企業寿命」と「長くなる職業寿命」の中で、雇用の流動化は更に進む見込み

(4) 効率・画一から個性・多様性へ

多様な人材が多彩な才能を発揮し、多様な生き方を追求する動きが広がっている。モノが充足し、生活の質が問われるようになり、商品やサービスの多様化も進む。

- ・人それぞれに異なる理想の暮らしを求めて生き方、働き方が多様化
- ・インターネット通販の普及により多品種少量生産のロングテール市場が誕生
- ・多様な人材の活躍に配慮したダイバーシティ経営を取り入れる企業が増加

(5) ローカル志向の胎動

若い世代の価値観の変化や、場所にとらわれないテレワークの浸透などを背景に、地方で暮らし、働くことを求める動きが広がりつつある。

- ・コロナ禍で三密回避のためテレワークが広がったことが若者のローカル志向を後押し
- ・副業の解禁など新たな働き方が広がり、職住融合のライフスタイルが広がる可能性

Ⅲ 新ビジョンの方向性

1 方向性

- ・人口減少や気候変動で不安が高まる未来の姿が想像される一方で、新たな価値観を持った人々が、進化したテクノロジーを駆使し、世界中に活躍の舞台を求めて活発に活動する未来を思い描くこともできる。
- ・新ビジョンでは、このような未来の姿を、県民一人ひとりが、もっと自分らしい生き方、働き方を追求して、自由に活動を展開することのできる兵庫像として描き出す必要がある。
- ・本試案では、研究会での議論と、県民との幅広い意見交換の結果に基づき導き出した次の5つの切り口から、未来社会のイメージを「未来シナリオ」を描き出す。

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| (1) 個性の追求 | (2) つながりの再生 | (3) 開放性の徹底 |
| (4) 美の創生 | (5) 次代の責任 | |

2 柱立ての内容

(1) 個性の追求

すべての県民が自分らしい生き方を求めて自発的に行動する社会をつくる必要がある。多彩な産業が営まれ、やりたい仕事、多様な働き方に挑戦できる兵庫をめざす。

- ・一人ひとりの個性が尊重され、誰もが自分が大切にしている価値を追求できる社会
- ・時間の使い方や自分の進む道、生き方を自己決定できる社会、それを応援する社会
- ・やりたい仕事に挑戦できる社会、その素地として多彩な産業が活発に営まれる社会

[研究会及び県民の主な意見]

- 自分で選択できることが大事。暮らし方、働き方の選択肢が豊富にある兵庫をめざすべき
- 労働時間が減少し、稼ぐためよりも、自分の価値を見いだすための活動が増える
- 世の中には多様な仕事、生き方があることに子どもの頃から触れられる社会をつくるべき
- 意欲的なチャレンジが次々と生まれる、何度でもチャレンジできる兵庫をめざすべき
- 自然を日常生活に取り入れることが、これからの豊かさではないか

(2) つながりの再生

個を大切にすると同じほど、人と人との温かいつながりを大事にする。弱い立場にある人々を取り残さないよう、多様なコミュニティが活発に活動する社会をめざす。

- ・個が強まる中でも、人と人とのつながりが保たれ、孤立や孤独を生まない社会
- ・格差が拡大する中でも、多様なコミュニティがセーフティネットとして機能する社会
- ・自助、共助、公助のバランスが取れ、いかなる危機にも助け合って対応できる社会

[研究会及び県民の主な意見]

- 分断を生まない社会、社会的弱者の生活の質を高めることに重きを置く社会でありたい
- 共同保育的な家族のあり方こそ普遍的。多様なライフスタイルに合わせた家族政策が必要
- より多様な人々が地域コミュニティに関われるよう、ICTをもっと活用すべき
- 地域で困っている人が見えにくくなっている。つながりの再構築が必要
- これからは、そこに誰がいるか、誰と暮らすかが住む場所を選ぶ基準になる

(3) 開放性の徹底

自分らしい生き方ができる前提として、その基盤が整っている必要がある。情報が共有され、誰もが活躍でき、どこへでも好きな場所へ行ける環境が整う未来をめざす。

- ・必要な情報をいつでもどこでも取得でき、自由に世界を動き回れる社会
- ・開かれた交流の場が至る所にあり、誰もが才能と情熱を解き放つことのできる社会
- ・組織や地域の垣根を越えて多様な人々が自由に意見を交わし、協働する社会

[研究会及び県民の主な意見]

- 高齢者が運転免許を返上しなくてもよい兵庫県をつくれぬか
- 女性がいきいきと活動し、ここにいれば幸せと思える地域にしていきたい
- 完全自動運転の時代には、お気に入りの地域を転々として暮らす人が出てくる
- 外国人を呼び込むためにも、多様性と寛容性を大切にする地域であることを掲げるべき
- リモートワークが進んで、中小企業でも全国で活躍できるチャンスが広がった

(4) 美の創生

自然の美しさ、街の美しさ、人々の営みの美しさ。様々な「美」へのこだわりを、兵庫の強みにしたい。未来に伝えるべき「美」と「文化」を生み出せる地域をつくる。

- ・県民が美へのこだわりを持ち、自分の活動領域の中でそれを表現していく社会
- ・テクノロジーを駆使して、美しい自然や街並みなど魅力的な空間が形成される社会
- ・兵庫五国の多彩な美と文化に磨きがかかり、その魅力に惹き付けられて人が集まる社会

[研究会及び県民の主な意見]

- 今の若者にとっては、課題が山積している地方こそがフロンティアだ
- 空き地を活用し、住んでいて幸せを感じられる質の高い緑空間あふれた兵庫をめざすべき
- 歩いて暮らせる街や、自動車から自転車への転換などを加速させるべき
- 他の職と組み合わせる「半農半X」の働き方が容易になる環境が必要
- まち全体として景観に一体感があって、お洒落なお店が並ぶ街並みをつくりたい

(5) 次代への責任

社会をより良いものに変えて次代に引き継ぎたい。気候変動への対応など大きな変革が求められる難題を後回しにせず、今できることから行動を起こす必要がある。

- ・持続可能な社会づくりに向けて県民が協力して取り組み、世界にも貢献する社会
- ・次世代の可能性を広げる教育が営まれ、地域の産業、文化が継承される社会
- ・次世代により良い自然環境と安全で快適な県土を引き継ぐべく努力する社会

[研究会及び県民の主な意見]

- 地域に対する責任やコミュニティの意義を子どもたちに伝えるための教育の充実が必要
- リアル体験価値が高まる中、地域が体験教育を積極的に担うような兵庫をめざすべき
- 識字教育に近い形で、全ての県民のITリテラシーを高める活動を展開するべき
- 地域で活躍する人の紹介など、働くこと、住むことのワクワクが伝わる環境をつくるべき
- 山のデータ化により稼げることを示すなど、バイオマス発電に本気で取り組むべき

IV 未来シナリオ

<未来シナリオ一覧>

柱立て	シナリオ
個性の追求	① 一日の大半が自分時間 ② バーチャルの進化で充実するリアル ③ 毎日いきいきスポーツライフ ④ いつまでも健康ライフ ⑤ 働く場所も時間も自由に ⑥ いつでもどこでも思い立ったら学ぶ ⑦ 次々生まれる挑戦者 ⑧ 新たな産業が芽生える先進地 ⑨ 五国の個性彩る御食国
つながりの再生	⑩ シェアして生きる ⑪ 拡張する家族 ⑫ 出入り自由、ゆるやかコミュニティ ⑬ 地域コミュニティが稼ぐ ⑭ 最期まで自分らしく生きられる地域
開放性の徹底	⑮ 移動ストレスゼロ社会 ⑯ 流動化し、軽くなる住まい ⑰ 地下、そして宇宙へ ⑱ デジタル自治体 ⑲ 多文化が入り混じる兵庫 ⑳ なくなるジェンダー・バイアス ㉑ なくなる定年、活躍するシニア ㉒ 誰もが生きやすいユニバーサルデザイン社会
美の創生	㉓ 集中から分散へ ㉔ 自然とともに暮らす ㉕ 磨かれる五国の美 ㉖ 際立つ美観 ㉗ 息づく芸術文化
次代への責任	㉘ 未来の学校 ㉙ 再生可能エネルギー100% ㉚ 森の再生 ㉛ 亜熱帯化する兵庫 ㉜ 進化する防災先進地 ㉝ つくるから使い続けるへ ㉞ 地域の継承

1 個性の追求

シナリオ1 一日の大半が自分時間

- ・人がする仕事の多くをAIが代替し、労働や家事の時間が大幅に減少。さらにテレワークは通勤時間を減らし、自動運転の普及により移動中にも好きなことができるように。
- ・革新技術がモノやサービスを生むコストを最小化。所有から共有中心のシェアリング文化が浸透し、高い収入を得なくても不自由を感じない社会になる。
- ・人々の活動の原動力は稼ぐことから、自分の幸せや価値を高めることにシフトする。多様性に富み、活動の選択肢が豊富に揃っている兵庫をフィールドに自己啓発、ソーシャルビジネス、地域活動やボランティア活動、スポーツや芸術を楽しむ人が増える。

シナリオ2 バーチャルの進化で充実するリアル

- ・バーチャルリアリティ（VR）が、より個人の嗜好に合わせた暮らしを実現。イベントや買い物を仮想空間で楽しみ、離れた家族や友人が隣にいるかのように会話を楽しめる。
- ・学校ではVR授業が一般化し、家の中で教室にいるかのような授業を受けることができる。
- ・VRで仕事をする人が増える。離れた場所にいる相手と簡単に打合せや商談ができる。
- ・都市部に集住する必要性が乏しくなり、自然豊かな地域に居を構える人も増える。
- ・高齢者、障害者、入院患者など身体が不自由な人々のQOLがVRで大きく向上する。

シナリオ3 毎日いきいきスポーツライフ

- ・地域のスポーツクラブが活発化。仕事終わりに多くのスポーツファンが、野球、サッカー、テニス、ジョギングなどを自分の趣向やライフスタイルに合わせて楽しんでいる。
- ・食生活・生活習慣、健康状態のデータや画像解析などの技術を誰もが手軽に活用し、個性や特徴に応じた質の高い競技やトレーニングを実践。トップアスリートの育成にも繋がる。
- ・年齢や障害の有無を超えたスポーツの輪が拡大。学校単位の部活動から地域のスポーツクラブへの移行が拡がり、子どもと大人が共に活動している。また、eスポーツが普及し、高齢者や障害者も気軽に参加して楽しむ光景が日常化している。

シナリオ4 いつまでも健康ライフ

- ・医療先進地として、個別化医療の実現を兵庫が先導。将来の疾患可能性を予測・診断し、事前に介入する先制医療が拡がり、自分自身に最適なライフスタイルの選択が可能になるとともに医療費低減にも寄与。
- ・再生医療の技術が進み、人工臓器、人工器官が医療現場で広く使用されている。
- ・ゲノム解析により、がんや糖尿病など、様々な疾患に対する対処法、治療法が確立。
- ・食生活や生活習慣から健康リスクがデータ化され、社会保障負担が決まる仕組みが定着。
- ・国民皆保険制度のもと基本的な医療サービスは提供されるが、高額なアンチエイジング医療は富裕層の特権となる。所得格差が健康格差、更には寿命格差へとつながる。

シナリオ5 働く場所も時間も自由に

- ・ 仕事内容やライフスタイルに応じて、個人が自由に働く場所と時間を選択できる「アクティビティ・ベースド・ワーキング（ABW）」が働き方の主流に。多様な暮らしを求めて兵庫に移り住み、全国・世界で活躍する人材が拡大
- ・ クラウドソーシングの発展に伴い、様々な仕事を掛け持ちする「百姓化」が進む。生活と仕事が一体化し、オンとオフの区別がなくなる。
- ・ 雇用の流動性が高まり、転職が当たり前になる。失敗からの再チャレンジのハードルが下がる。リカレント教育が一般化し、大学等で学ぶ大人が増える。

シナリオ6 いつでもどこでも思い立ったら学ぶ

- ・ 働く時間が減り、ゆとりある暮らしの中で、新たな学びに向かう人が増える。労働市場のグローバル化、ジョブ型雇用へのシフトが進む中で、「学び続ける」ことが強いられる社会だとも言える。
- ・ 公開オンライン講座が普及し、世界最高水準の教育を双方向で受けられる環境が実現。仕事を続けながらの学びだけでなく、仕事を中断して数カ月から数年単位で学びを深めるスタイルも浸透。
- ・ 兵庫では、大学や企業、行政が中心に、刺激的な学びの空間をあらゆる場所に形成。知的好奇心で繋がる様々なコミュニティが生まれ、まちとしての魅力を高めている。

シナリオ7 次々生まれる挑戦者

- ・ 起業支援機関が集まる神戸を中心にスタートアップが国内外から集積。起業家が切磋琢磨しながら社会課題を解決する新ビジネスを次々と生み出す好循環が生まれている。
- ・ 県内各地でスタートアップが続々と誕生。社会貢献意識の高まりから地域課題の解決をめざすソーシャルビジネスが盛んになり、収益を上げつつ持続的な活動を展開している。
- ・ 自分のアイデアを容易にビジネスにできる環境が整う。クラウドファンディングで資金を得、クラウドソーシングでチームを作り、3Dプリンタで形にし、インターネットで商品やサービスを展開する。そうしたフットワークの軽い起業家たちが活躍している。
- ・ 人々が日常生活を送る上で欠かせず、AIやロボットで代替できない医療や福祉、小売りや物流などに安定的に人材が供給されている。人々に寄り添い生活の質を高める高い能力を持ったエッセンシャルワーカーは、フリーエージェントとして活躍している。

シナリオ8 新たな産業が芽生える先進地

- ・ 兵庫に集積する最先端の科学技術基盤とものづくり産業の技術力により、ロボット、航空・宇宙・海洋、健康医療、水素等の新エネルギーなど先端産業を牽引している。
- ・ 製造業のサービス産業化が進む。製品のIoT化が進み、利用シーンに合わせた最適化や使い続けるためのアフターサービスが充実する。また、個性の時代の中で、伝統技術を活かした商品、デザイン性や物語性を持った商品が国内外に根強いファンを獲得している。
- ・ 自分時間の増加に伴って健康、スポーツ、芸術文化、娯楽、学習などの市場が拡大。神戸で健康医療、阪神で音楽、但馬で演劇など、各地で生活文化産業が発展している。

- ・プラットフォームは更に巨大化し、デジタル空間の中で消費や投資が行われるデジタル経済圏が形成されている。県内企業もプラットフォームとのパートナーシップを結ぶことにより、世界中でビジネスを展開している。

シナリオ9 五国の個性彩る御食国

- ・健康志向や食へのこだわりが高まる中、淡路のたまねぎや丹波の栗などその地域ならではの作物の価値が向上し、新たなブランド産品が数多く生まれている。生産者と飲食店・消費者が直接つながり、継続的に産地から直送する形態が広がるなど、流通も多様化している。
- ・法人が経営する大規模農場では、AIによる圃場監視システムと作業ロボットが標準装備化している。一方、完全屋内の植物工場が、遊休施設が活用され各地で稼働している。
- ・ゲノム編集やビッグデータ活用を手掛けるスタートアップが農業に参入し、生産の効率化や食の安全性の向上に止まらず、植物肉・昆虫食等のフードテック市場を牽引している。
- ・畜産では、データを活用した最適な飼養方法により生産性が高まり、ブランド牛である神戸ビーフは世界の需要に応えている。
- ・漁業では、海洋の資源量が減少し、獲る漁業から育てる漁業への転換が加速している。IoTによる海面養殖の高度化・省力化が進む一方、陸上養殖が飛躍的に拡大している。

2 つながりの再生

シナリオ10 シェアして生きる

- ・高度な格付けシステムを備えた信頼性の高いシェアリングサービスであらゆるモノを必要な時に簡単に使用できるようになり、あえて所有する必要がなくなる。
- ・所有から管理責任という概念が基本になる。企業が使う機械も使用している間は排他的使用权（保守の義務を含む）があるが、必要なくなれば別の管理者に管理責任が移る。
- ・インターネットで単発の仕事を受注するギグエコノミーが普及。社会的な活動のクラウドソーシングも広がり、自分の時間を地域活動に振り向ける人が増える。
- ・モノやサービスの消費、所有、マンパワーなどを共有し、個人や企業がより繋がりあう仕組みが構築され社会経済活動が活性化している。

シナリオ11 拡張する家族

- ・これまでの血縁型の世帯は、単身化・個人化が進み、世帯単位に設計されていた制度（国民健康保険、年金、生活保護など）は個人単位に置き換わる。
- ・フルパッケージ型の家族（働き、生計を立て、子どもを生き育て、病人・老人を看護し、家の伝統を継ぎ、愛情や安らぎを得る）は減り、家族機能の外部化が進行。血縁を必ずしも重視しないアラカルト型の家族（子育て期間中だけ共同生活をするなど必要な時期に必要な機能を選択して家族を形成）が一般化。共同保育や共同介護に適した居住区の開発が進み、人気を集める。
- ・一方で、親子が支え合って生活する場として大家族を見直す動きも強まる。親世帯との同居を志向する子世帯が主流になり、三世代同居する家族も増える。

シナリオ12 出入り自由、ゆるやかコミュニティ

- ・ 関心を共有する人々がリアルやバーチャルでつながる新しい「地縁」「社縁」が生まれる。テーマ型のコミュニティに複数関わりながら生きていく人が増加。ミッションを持ったコミュニティが複層的に存在し、関わる人々の熱量に応じて生成を繰り返す姿に。
- ・ 地域コミュニティは、リアル住民とバーチャル住民（出身者やその地域に関心を持つ人）が仮想空間でつながりを拡大しながら、出入り自由なスタイルで緩やかに運営される。

シナリオ13 地域コミュニティが稼ぐ

- ・ 地域をともに創る兵庫の精神が発展し、ビジネスとして地域の課題解決に取り組むソーシャルビジネスが県内各地で活性化。志を共有する人々がチームを組んで様々な活動を展開し、副業としてこれに関わる人も増加。
- ・ 見守り、カフェ、再生可能エネルギーの活用、カーシェアリングなど多様な事業が展開され、地域通貨などを組み合わせて地域内でお金が循環する仕組みができています。
- ・ 様々な活動体を緩やかに束ねる協議会型の地域自治組織が地域の要となり、情報共有、プロジェクトのサポート、関係者の調整などを行っている。地域活性化や環境整備など自治体行政の機能の一部を地域自治組織に委ねる動きが進む。

シナリオ14 最期まで自分らしく生きられる地域

- ・ 24時間対応の在宅介護サービスが強化され、要介護になっても地域で安心して暮らせる体制が整う。働き方が多様化し、住まいの自由度も高まる中、近居や大家族によるサポートを得られる人も増加。地域の多世代が「拡大家族」としての高齢者を見守る仕組みも浸透するなど、阪神・淡路大震災以来の共助のまちづくりが確立。
- ・ 生活の質を高める、身体機能を補助する、安全を確保するといった様々なデバイスが開発される。こうした「介護テック」が介護現場の負担を軽減し、人の尊厳も守っている。
- ・ 終末期のよりよい過ごし方を考える人が増え、人生の最期の迎え方が多様化している。

3 開放性の徹底

シナリオ15 移動ストレスゼロ社会

- ・ 自動運転が実用化し、乗合バスも自動運転に置き換わる。電動自動運転車のシェアカー、ライドシェアが普及する。近場を動き回る人用の小型電動車両が普及する。空飛ぶ車や一人乗りドローンも実用化している。
- ・ 地域の交通サービスがネットワーク化され、目的地まで最適な移動手段でストレスなく移動できるように。AI信号機や自動運転車が普及し、交通事故、交通渋滞も激減する。
- ・ 神戸空港が国際化し、関西国際空港、新神戸駅と地下トンネルでダイレクトに結ばれ、海外アクセスの利便性が大幅に向上。神戸・兵庫は世界に開かれた西の玄関口となる。舞台芸術や観光で世界から注目される但馬には、但馬空港経由で多くの人が集まる。
- ・ 移動履歴のデータは匿名化され、生活利便性の向上や新産業の創出に役立てられる。監視社会化を懸念する声がある一方で、犯罪発生件数は激減。

シナリオ16 流動化し、軽くなる住まい

- ・ 仕事が住む場所を決める時代は去り、ライフステージの変化や自分の価値観に基づき、自由に住む場所を選んでいる。定住が一般的ではなくなる。
- ・ 居住地の流動化に伴い、持ち家志向が薄れ、中古住宅を自分好みにリノベーションして住む、モノはなるべく少なく、シンプルに暮らすなど「軽く住む」志向の人が増える。重たい住宅ローンを避ける人が増え、働き方やお金の使い道の選択肢が広がる。
- ・ 県内各地で多数の多拠点居住サービス拠点が整備され、住まいを転々としながら、気候や風土が違う兵庫五国の四季折々の良さを味わいながら暮らす人が増えている。

シナリオ17 地下、そして宇宙へ

- ・ 大深度地下利用が進み、地下に実験都市が整備される。海底利用の研究も進められ、関連の大学、企業が集積する兵庫がその中心地となっている。
- ・ 人類の新たな活動空間を求める動きが活発化。宇宙ではISS（国際宇宙ステーション）の建設や、月・火星への進出が進められ、兵庫の企業がその中で活躍している。

シナリオ18 デジタル自治体

- ・ デジタル化により自治体運営が高度化する。リアルタイムの住民意向把握と徹底的な情報開示による意思決定過程の透明化により、効果的な施策がタイムリーに行われる。
- ・ 医療福祉、上下水道等の基幹的な住民サービスの共通化が進み、どこに住んでも安心して生活ができる環境が整う一方で、教育、産業振興、まちづくり等では特色ある取組が競って行われ、やりたいことに合わせて好きな地域を選んで住める社会になっている。
- ・ 定住を前提としない住民票や住民税の制度が整っている。二地域居住者は第二住民票を持てる。選挙は電子投票になり、自治体の選挙では第二住民票を持つ人も投票できる。

シナリオ19 多文化が入り混じる兵庫

- ・ テレワークの普及により、兵庫に住む外国人が増加。幅広い業種で外国人が活躍し、様々な国にルーツを持つ子どもが学校で日本人の子どもと一緒に学ぶ。市役所で働く外国人や、地域でキーパーソンとして活躍する外国人が普通にいる社会になる。
- ・ 多様な背景を持った人々が集まり交流することで地域社会が活気づく。企業、学校、行政、議会などを、外国人をはじめ多様な構成員で組織していこうという動きが強まる。

シナリオ20 なくなるジェンダー・バイアス

- ・ 男女格差が解消。昭和の時代にピークを迎えたサラリーマン社会を支えていた性別役割分担意識が旧時代の遺物になり、「主婦」という職業分類もなくなっている。
- ・ 職場ではAIによる人事評価が定着。女性の管理職比率が向上し、リーダー的立場で活躍する女性が増加。若い人たちも活躍する女性を見て、未来に希望を持っている。
- ・ L G B Tへの差別意識が解消され、性的マイノリティが生きやすい社会になっている。

シナリオ21 なくなる定年、活躍するシニア

- ・人それぞれに多様な働き方を選べるようになり、年功序列、終身雇用の消滅と共に定年という概念も過去のものとなる。定年という時限から開放された知力、体力、経験ともに充実したシニアが、次世代により良い社会を引き継ぐべく、新たな取組に果敢に挑戦している。
- ・さらに体力的な衰えをサポートするパワーアシストスーツや、視力・聴力・記憶力を飛躍的に高める先端デバイスが人間機能を拡張し、多くの人々が活躍の場を広げている。

シナリオ22 誰もが生きやすいユニバーサルデザイン社会

- ・全国に先駆け福祉のまちづくりを進めてきた兵庫では、ユニバーサルデザインの思想が社会に浸透し、物理的な対応は極限まで進む。兵庫の学校では、異なる文化や考え方を持つ人への理解と共感を深めるエンパシー教育に力を入れている。
- ・技術の進展は、義手や義足、補聴器をデザイン性に優れたファッションにし、車椅子は誰もが利用するパーソナルモビリティとなる。誰もが身体性の拡張を選べる時代に。

4 美の創生

シナリオ23 集中から分散へ

- ・北・西播磨、但馬、丹波、淡路など、地方部の人口が増え、副業として農業や狩猟で自然の恵みを味わう生活が浸透している。瀬戸内側の都市部は人口が減って混雑が緩和され、暮らしやすくなっている。
- ・地方部では、自然の中でのオフィスワーク、スマート化された農林水産業、芸術やコミュニティに新たな風を吹き込む活動など、若者のフロンティアが各地に出現。
- ・都市部では、洗練された構造物と調和して配置された緑地やオープンスペースが、過剰でない人の賑わいを生み、クリーンで上質な暮らしを実現。

シナリオ24 自然とともに暮らす

- ・テレワークが一般化し、時間の自由度が高まる。副業として農業や漁業、林業、狩猟をする人が増え、都市部と但馬・丹波・淡路などとの二地域居住や田舎暮らしをする人が増える。農業を学べる農場や貸し農園が活況を呈する。
- ・農地を持つ農業者の手伝いとして農業の世界に入る人が増え、そこから自ら経営する農業へと移行する人も増える。遊休農地の活用が進み、農業生産が拡大。都市居住者の間でも農への関心が高まり、家庭菜園をする人が増加。市街地の空きスペースの農地転換が進む。
- ・全ての県民が何らかの形で「農」に関わる「県民皆農」が実現。こうした暮らしが県内各地の山や里の適切な管理と美しい景観の維持に大きく貢献している。

シナリオ25 磨かれる五国の美

- ・摂津、播磨、但馬、丹波、淡路の五国それぞれにある、その地のアイデンティティを示す有形無形の資源が、地域の人々の努力によって改めて見直され、保存、活用されている。多くの人を魅了する自然、歴史、町並み、食、文化、産業などの特色ある宝は、その美しさに益々磨きがかかり、後世に大切に受け継がれている。

- ・すべての資産はVR上で再現され、多くの人がバーチャルで体験している。それがきっかけとなって、本物を目当てに世界中の人々が五国を来訪・周遊している。

シナリオ26 際立つ美観

- ・電線類の地中化が、空の美しさを感じ取れる街並みを生んだ。三宮をはじめとした中心市街地では、歩車分離と、人々が憩える空間の整備が進み、街中は歩行者で賑わう。近所の公園や河川敷は住民が思い思いに時を過ごす気持ちの良い空間に生まれ変わる。
- ・各地に民間のエリアマネジメント組織が形成され、老朽化した施設や工場が斬新に再利用される。魅力的なオープンスペースを中心にした新しい商業施設が各所に生み出される。
- ・デザインコードによる景観形成や美しい自然環境の創出が競って進められるようになる。

シナリオ27 息づく芸術文化

- ・創造力を培う教育への熱が高まる。県内の小中高校では、芸術文化観光専門職大学のサポートも受け「アート」や「デザイン」に比重を置いた教育が展開される。アートやデザインに長けた人材への需要が高まり、それらを学ぶ人が増える。
- ・多くの県民が何らかの芸術文化活動に携わり、各地で創作や発表が活発に行われている。
- ・但馬が舞台芸術の世界的な中心地になっている。アジア最大の演劇祭が毎年開催され、世界から多くの人々が訪れる。兵庫で育った舞台芸術の専門家が世界で活躍している。
- ・伝統芸能や祭りの維持に、地域が力を挙げて取り組んでいる。新たな担い手を巻き込みながら、伝統と革新の両面から新たな地域文化を生み出す取組が展開されている。

5 次代への責任

シナリオ28 未来の学校

- ・年齢で線引きする6・3・3制や住所で線引きする校区制の壁が低くなり、行きたい学校に行きたい時期に行けるようになる。偏差値の高い学校ばかりを目指す風潮は薄れ、関心や得意分野などから進路を自分で決めている。
- ・学校は子どもの個性と社会性を育む場になる。知識の習得はAIの個別指導で効率的に行われ、教師は子どもの個性を見極め、伸ばす仕事に注力するようになる。
- ・学校では地域住民も積極的に関わって自然、産業、文化等の体験教育が行われている。
- ・人間形成の基礎として幼児教育の重要性が認識され、就学年齢が2～3歳前倒しされる。

シナリオ29 再生可能エネルギー100%

- ・エネルギー自立を実現するため、徹底的な節電・省エネと、再生可能エネルギーへの100%移行を目指す取組が地域で着々と進められている。
- ・大規模発電所では化石燃料からカーボンフリー水素への燃料転換が進展。電気自動車が席捲する車の世界でも、より航続距離の長い水素自動車への置き換えが進行。水素と二酸化炭素からメタンを合成する「メタネーション」技術の活用により、家庭にも都市ガスパイプライン等を通じて水素が供給されている。

- ・地域の自然資源をもとにカーボンフリーの電力を供給するエネルギー公社が各地に設立され、電力システムの分散化が進む。エネルギー産業が新たな地域産業として定着。

シナリオ30 森の再生

- ・放置林の拡大と所有者不明化が進む中、森林の公益的機能を維持するため、寄附受納による公有化が進展。自治体が所有・管理する森林が増え、森林経営は自治体の主要な仕事に。
- ・森林に人の手が入り、スギ・ヒノキばかりの針葉林から多様な樹種により構成される混交林への転換が進む。動物たちの棲み処が再生され、人里に近づく野生動物が激減する。
- ・建材需要だけでは賄い切れないため、燃料としての木材利用が更に拡大。主力電源の一翼を担う木質バイオマス発電事業と組み合わせた大規模森林経営が各地で展開されている。

シナリオ31 亜熱帯化する兵庫

- ・地球規模の気候変動により、日本の年平均気温は2050年までに約1℃上昇。県内でも猛暑日や熱帯夜の増加、局地的大雨の頻発化など「亜熱帯化」が進行。
- ・夏が長期化し、真夏の暑さは耐え難い水準に。県民はますます空調に依存した生活に移行。夏の昼間の屋外活動は困難になり、学校や事業所の夏季休業は長期化。
- ・ヒートアイランド化する都心部や、海面水位の上昇と風水害の激甚化で浸水リスクの高まる場所を避けて住む人が増える。風通しの良さや標高の高い場所の価値が高まる。

シナリオ32 進化する防災先進地

- ・大きな災害に相次いで見舞われ、対策の限界にますます多くの人が気付く。災害が起こってから対処するのではなく、極力災害に合わないような住まい方、働き方への変化が進む。
- ・ハザードマップと災害履歴をもとに居住地や仕事場を選ぶ人が増える。急傾斜地や土砂災害の危険性の高い場所、浸水リスクの高い場所には徐々に人が居着かなくなる。
- ・感染症リスクを避けるため、大都市の密集は忌避されるようになり、疎に暮らすライフスタイルを志向する人が増加。人口の地方分散が進む。
- ・防災庁の拠点ができる、国内外の災害対策の研究と、防災人材の育成、研修が行われている。国内外から研究、研修のために人が集まり、兵庫で育った人材が世界の防災に貢献。

シナリオ33 つくるから使い続けるへ

- ・道路、電気、水道等の社会基盤は、耐用年数100年超の長寿命設計が基本に。IoTを活用した保守管理技術や低コスト補修技術の進歩により、社会基盤の寿命が大幅に伸長。
- ・多自然地域では低利用の社会基盤の廃止が進む。山奥では、無人化し自然に還っていく場所がある一方で、豊かな暮らしができる住処として生き残っていく場所もある。
- ・住宅は、新築よりも中古住宅のリノベーションが主流に。住まいの保障が社会保障に組み込まれ、住宅コストを気に病むことなく年を取れるようになり、一生賃貸派が増加。

- ・流動化する社会の中で、自分のアイデンティティの拠り所として、地域に関心を向ける人が増えている。学校では、体験を通じて地域の成り立ちや資源、伝統文化を学ぶ取組が行われ、子どもたちはコミュニティの大切さを知る。
- ・生まれ育った地域に愛着と責任感を感じ、住み続ける人、関わり続ける人が増えている。離れていてもバーチャルにつながりを保とうとする人、二地域居住や副業で地域との関わりを維持しようとする人が増える。長い歴史を通して受け継がれてきた地域が途切れることなく、確実に次の世代にバトンタッチされていく。

V 結び

1 たたき台としての将来構想試案

- ・望ましい未来は一人ずつ異なる。もっと魅力的な未来の姿を描くこともできるはず。
- ・県民との対話を重ねて、県民の総意により近い将来像を示すものとするのが重要。この試案を一つの出発点として、兵庫の未来について議論を深めることが大切。
- ・社会の変化は止まることがなく、技術も絶えず進化していく。新ビジョン策定後も、内容を柔軟に見直し、成長するビジョンとしてバージョンアップさせることが重要。

2 新ビジョン実現の仕掛けづくり

- ・兵庫の未来を創るのは、これから県民となる人も含めた一人ひとりの県民。新ビジョンが描く未来の実現に向けて、一人ひとりの県民が行動していくことこそ肝要。
- ・新しい考え方や活動を歓迎し、後押しする社会を創る必要がある。誰もが安心して新たなことに挑戦できる環境づくりができるかどうか、ビジョン実現の鍵を握る。
- ・ビジョンは作るだけでは意味がない。新たな活動が次々と生み出される動的なビジョンを目指すべき。ビジョン実現に向けたプロジェクトを推進する枠組みが必要。

(参考) 将来構想研究会及び県民の主な意見

1 個性の追求

<研究会の意見>

- 自動化・無人化が加速し、生活コストも下がれば、人類史上初めて労働時間が大幅に減少する時代が来る可能性がある。その時、何のために生きているのかが問われる。稼ぐためだけでなく、自分の価値を見いだすための活動が増えるだろう。 [シリア1]
- なぜ子供を預けてまで共働きをし、必死に働かなければならないのか。市場化が進んでお金を稼ぐことばかりに汲々となる社会を次代に引き継ぐのではなく、時間にゆとりがあって自分の好きなことで社会や地域に貢献できるような兵庫を想定して夢を語りたい。 [シリア1]
- 労働時間が減少する中で、仕事以外での時間の過ごし方が重要になる。芸術や自然など、精神的な価値をより大切にする社会になるだろう。 [シリア1, 24]
- 所得や学歴よりも、自分で「選択」できることが満足度や幸福度の向上につながるとの分析結果がある。暮らし方や働き方の選択肢が豊富にある兵庫をつくりたい。 [シリア5]
- 意欲的なチャレンジが次々と生まれる社会をつくるには、失敗した人を救うセーフティネットの充実が欠かせない。何度でもチャレンジできる兵庫をめざしたい。 [シリア7]
- 仮にAI失業社会が到来すれば、ベーシックインカム的な所得補償制度が必要になるだろう。また、残った仕事を人々の間でシェアしていくことも重要になる。 [シリア7]
- かつては自営業の多さが職業選択の自由度を高めていたが、今は組織に帰属することばかりに目が向いている。世の中には多様な仕事、生き方があることを、子供の頃から触れられる社会をつくっていくべき。現在の一斉就職をやめ、いろんな経験をした上で仕事を選べるような環境もつくりたい。 [シリア7, 28]
- 社会的弱者の生活の質を高めることに重きを置く社会でありたい。介護・看護等の職種はより価値を持つようになるだろうし、それに応じた社会的地位や賃金が確保される社会であるべき。 [シリア7]
- 今後の産業は、技術革新以上に、シェアリングエコノミーなど生活のイノベーションに伸びしろがある。規模の経済と効率化を求める集積型産業から、生活やライフスタイルに新たな価値を生む産業へと経済の中軸がシフトするだろう。 [シリア8]
- 東京や世界と競争していくには、兵庫県の枠の中だけで発想しては限界がある。近隣の自治体とさらに連携を深めた広域圏の形成が求められる。 [シリア7, 8]

<県民の意見>

- 時間を無駄に浪費する場所やモノを作るのではなく、生活そのものが生きがいになるような魅力的な地域にすることが大事ではないか。 [シリア1]
- 子どもたちの遊びがゲーム上で友達と集まって交流することが主流になっている。30年後は、仕事も友達に会うのもバーチャル上になる。観光地やリゾート地をバーチャル上につくことも面白いのではないか。 [シリア2]
- 海浜公園の中に、バーベキュー場やグランピング施設を整備して景色を楽しんだり、スポーツができる施設があれば健康の面でも盛り上がるのではないか。 [シリア3, 4]
- 家島はネット環境があり姫路市にも近く、ワーケーションに最適。テレワーカーが集まる島にしたい。 [シリア5]
- オンラインが広がりつつあるが、リアルでしか提供できないものがある。その地域でしかできないものづくりを考えていく必要がある。 [シリア8]
- 最新技術は、農業に大きなインパクトを与える。若者が能力を生かして活躍できる。 [シリア9]
- 消費者の嗜好の変化をとらえたブランド力ある兵庫限定の品種開発に取り組むべき。 [シリア9]
- クリエイターの移住が進み、東京の広告代理店でなくても、上質なPRができる。 [シリア9]

- 農商工のつながりをつくり、特産品同士の組み合わせで世界を狙える。[シリオ9]
- 田舎や農業のイメージを一新して、どんどん新しい人に入ってきてほしい。Iターン者が入ってくることで、農家の子息も自分もやろうと思ってくれるかもしれない。[シリオ9]

2 つながりの再生

<研究会の意見>

- 人類学や生物学の観点からすると、共同保育的な家族のあり方こそが普遍的で、近代の核家族的なあり方には無理があることが明らかになってきた。核家族を理想とする家族政策は、若者の多様なライフスタイルとも齟齬を来している。単身世帯や世帯内単身者等に対応した仕組みが求められる。[シリオ11]
- 地域コミュニティの作り直しが必要。コミュニティには草刈り等の「手段」の部分と交流等の「目的」の部分があるが、前者を軽くしつつ、後者を強化していくべき。[シリオ12]
- より多様な人々が地域コミュニティに関わる必要がある。在宅勤務が一般化すれば支え手が増えるだろうし、住民だけでなく、ITを使って地域出身者や関心のある人などが参画する仕組みも生まれてくるだろう。[シリオ12]
- 心に余裕があり、自分に自信を持ち、未来に希望を感じているといった状態を指す「心理的資本」は、コミュニティの中で育まれるという調査結果がある。人材を育む上でも、コミュニティの果たす役割は大きい。[シリオ12]
- コミュニティが地域の資源を共有財産として管理・充実させることで地域経済を回す流れをつくっていききたい。[シリオ13]

<県民の意見>

- 顔が見えるコミュニティが大事。何でも相談できて、孤立せず子育てができることが大事である。[シリオ12]
- 外から来て深く地域で活動している人を、ちょうどいい距離でほっといてくれる。[シリオ12]
- ニュータウンには伝統行事がない。つながりを維持する核となる資源が必要。[シリオ12]
- 新規居住者や企業の外国人従業員が増えているが、地域のつながりが薄くなることで、困っている人が見えにくくなっている。横のつながりをつくる必要がある。[シリオ12]
- 自由に人が移動できるようになれば、住む場所を選ぶ基準が「どこ」ではなく「誰と」になる。その地域の住人があたたかく、困ったら助けてくれる地域になる必要がある。[シリオ12]
- 登下校時に大人が声かけをするなど、地域ぐるみで子どもの見守りを進めたい。[シリオ12]

3 開放性の徹底

<研究会の意見>

- 高齢者が不便なく暮らし、活動するには移動手段の確保が重要。高齢者が運転免許を返上しなくてもよい兵庫県をめざしてはどうか。そのために、中低速レーンや車道・歩道の再配分など、高齢者でも安全に運転できる道路をつくるべき。[シリオ15]
- 5Gと完全自動運転の時代には、家はリビングやキッチン等の住宅のコアだけがあり、各人の個室は自動運転車になるのではないかと。車中のベッドで寝て、朝起きればその日の目的地に自動的に着いている、といった形で部屋とともに移動する。そうなるとうお気に入りの地域を転々として暮らす人が出てくるだろう。[シリオ15, 16]
- 住まいも職業も、移ることのハードルが下がった社会をつくりたい。今の日本は移動すると損をする固定化の仕組みになっている。[シリオ15, 16]
- 求める住宅も多様化するだろう。安いマンションを買ってリノベーションする、モノは最小限にする、といった「軽く住む」スタイルがすでに広がっている。[シリオ16]

- これまでは仕事に住む場所を決めてきた。これからは自分の個性や価値観に合った場所に住めるようになる。過疎地についても一部集約が必要な機能もあろうが、疎に暮らす選択肢を無理に奪っていくべきではない。[シリオ16]
- 今の若者は、年齢によって住む場所を変えることを考えており、定住自体に重きを置いていない。今後、都市と地方を行き来する生活が広がり、ダブル住民票という考え方も出てくるだろう。[シリオ18]
- 自治体によって、子どもの可能性を潰すような大事な部分で違いがあるのは変だ。[シリオ18]
- 「地域に残って子どもを産んでもらわないと困る」という発想が根付いている限り、若い女性は出ていく。年長の女性がいきいきと活動し、ここにいれば幸せに暮らせると思える地域にしていきたい。[シリオ20]
- 今後、多自然地域は、単身の女性高齢者が圧倒的に多くなる。風通しが良くなり、封建的な雰囲気が変わっていくのではないか。[シリオ20]
- 個人化の進行は分断や格差を生む恐れがある。コロナ禍でも、テレワークに移行したオンライン組と、身体接触を必要とするサービス労働者組との分断が生じた。今後、ジョブ型雇用などを上手く利用できる人とそれに耐えられない人との間でも格差が生じ得る。分断・格差を生まないための公的な仕組みづくりとともに、相手の立場に立って考えるエンパシーを教育の中で身につける社会にしたい。[シリオ22]

<県民の意見>

- 生活と健康を守るためにも、その地域にあった交通の便として、どういふものが必要なのかを考えていかなければならない。[シリオ15]
- 年寄りになったときの移動が心配。お年寄りに優しいまちになってほしい。[シリオ15]
- 居住する外国人からも、神戸は住環境も良く、医療産業都市など最先端産業もあり素晴らしいと言われている。多様で多国籍なまちづくりに期待している。[シリオ19]
- 外国人労働者が多いが、コミュニケーションをできる場所がない。[シリオ19]
- 自治体側が、「うちは、多様性と寛容性を大切にする町です」ということを掲げてくれると、「ここはいろんな人に来てもらいたいと考えている」と届くのではないか。[シリオ19]
- 会議でも女性が一人だと意見が通らず、女性は3割以上いないと変わらない。女性が活躍できる場をどうつくっていくか考えていく必要があるのではないか。[シリオ20]
- 要介護者の世帯の女性が負担に。女性が家庭に埋もれない環境が必要。[シリオ20]
- ちょうどいい田舎は、窮屈でもなく、不便も少ない。交通は不便だが、物価は安い。リタイア組や都市部の高齢者の受け入れにより、産業を創出し、若者の雇用も生む。[シリオ21]
- 買い物もしやすく医療も充実しているメリットを生かし、高齢者を呼び込むモデルタウンにする。シルバー労働力の供給源に、企業を誘致、外国人も来てくれるように。[シリオ21]
- 特産品をつくる特技を100歳になっても現役でできる環境をつくりたい。[シリオ21]

4 美の創生

<研究会の意見>

- 今の若者にとって、課題が山積している地方こそがフロンティアになっている。人が少ないため規制が少なく、イノベーションも起こしやすい。意欲ある若者が移り住みつつあり、この流れは今後さらに大きくなるだろう。[シリオ23]
- 都市内にオープンスペースや自然との共生空間を埋め込んでいくことや、自宅周辺の庭や公園などのネイバーフッドプレイスの居心地の良さを高めていく取り組みが重要になる。[シリオ23]
- 車道を屋外カフェに変えるといった市民中心の社会実験を繰り返し、そこから新たな産業・雇用を生み出すタクティカル・アーバニズムが進むだろう。[シリオ23]

- 快適で魅力あるまちをつくるため、ウォークアブルシティ（歩いて暮らせる街）や、自動車から自転車への転換等も加速させるべき。[シリオ23]
- 人口減少によって住宅が減り、空き地が増えていく。住んでいて幸せを感じられる質の高い緑空間にあふれた兵庫をめざしたい。[シリオ23, 24]
- 都市部は緑地が増えて豊かな住環境になる一方、多自然地域は人の関わりが減って自然環境が荒廃する恐れがある。どこを残してどこを手放すかも含め、対応を迫られるだろう。[シリオ24]
- 景観や自然環境、文化を保全する上で欠かせないのが、農地の維持である。農業の高付加価値化をめざすだけでなく、育てやすい作物を低コストで大量生産して、農地を面的に守る視点も重視すべきではないか。[シリオ24]
- 農業に就きたい若者は増えているが、生活の不安から躊躇している。他の職と組み合わせて生計を立てる「半農半X」の働き方がより容易にできる環境をつくっていききたい。[シリオ24]
- 五国からなる多様な兵庫だからこそ、様々な暮らし方、働き方ができるよう、地域がより個性を磨き合う社会をめざしたい。「AIによる未来予測」から見えてくるのも、望ましい未来につながるのは各地域が魅力を高める分散型の社会である。[シリオ25]
- 文化的景観の維持には、土地・建物だけでなく、そこに住む人の営みも含めた「生きた文化財」を守る視点が必要である。[シリオ26, 27]

<県民の意見>

- 30年後は、海に向かうのではなく、山の中に向かうイメージがいいのではないか。[シリオ23]
- 人間は心のバランスが大事で、自然と一緒に大切。自然を日常生活に取り入れることが、これからの豊かさではないか。自分自身が豊かで、余裕があることが大切。[シリオ24]
- “しっかり田舎”である良さを残して発展させたい。田舎の広い庭でゆったり過ごすことに大きな価値があり、そのような生活がその地域ではできる。[シリオ24]
- 閉鎖された自然の家も復活させれば、グランピングやアウトドア、ワーケーションなど、可能性があるのではないか。[シリオ24]
- 清流が、子どもたちの良い自然体験の場。多自然地域ならではの良さを引き継ぐ。[シリオ24]
- 緑や森があることで、生きることや自然の豊かさを感じられる。[シリオ24]
- 田園を見渡せるレストランや森の中のカフェなど人を惹きつける潜在力がある。[シリオ24]
- 多拠点での生活で、県内でも地域が違くと風土が違い、五国の多様性を感じる。[シリオ25]
- まち全体として景観に一体感があって、お洒落なお店が並ぶ街並みをつくりたい。[シリオ26]
- よそ者だが、この美しい里山や田園風景を残したいと心から感じる。[シリオ26]
- 景観条例などで景観に気をつけていて、しっかりしたまちづくりを残して欲しい。[シリオ26]
- 地域には歴史がある。ストーリーとして磨くことが大切。[シリオ27]
- 一流の食材、地域資源も多くある。当たり前と思っていることを、実は素晴らしいことだったと再認識して、新たな魅力として発信していくことが大事。[シリオ27]
- 伝統産業と街並みを掛け合わせれば、地域を盛り上げることができる。[シリオ27]

5 次代への責任

<研究会の意見>

- デジタル社会が進展する中で、リアルの体験の価値が一層高まる。学校だけでは限界があるため、地域が体験教育を積極的に担うような兵庫をめざしたい。[シリオ28]
- ITに弱い人がいてはいけない。識字教育に近い形で、ITリテラシーを高める活動を展開すべき。[シリオ28]
- 多自然地域の環境を守る仕事は、これまで主に地縁的な自治組織が担ってきたが限界にきている。今後は外部人材が関わりながら民間企業と一緒に管理する形も摸索すべき。[シリオ30]

- 地域の自立があるべき姿。地域に当事者意識を持つ若者が、生業のなかで自己実現できる社会をめざしたい。 [シリオ34]
- 勤め先は都市部にあるが、テレワークで地方に住むといった人ばかりが増えても駄目。その地域を担っていく人が住まないと、持続的な発展にはつながらない。 [シリオ34]
- コミュニティに対する素地がないと、だれも地域に責任をもたなくなる。5Gと完全自動運転によって人の流動性が高まると、地域に責任を持たないフリーライダーも数多く生まれるだろう。大事なのは、地域に対する責任やコミュニティの意義を過去から未来までの時間軸に位置付けながら考えることであり、教育の充実が求められる。 [シリオ34]

<県民の意見>

- 将来がこうなっていくから、今こういう教育をしているということを、子どもたちにわかりやすく伝える必要がある。 [シリオ28]
- 最先端のITと原始的な教育を共存させる必要がある。心を伝えて、その心をどのようにITにのせるかという視点が、次の世代を託す子ども達の教育に必要ではないか。 [シリオ28]
- 子どもたちにとって、自分で選べるということが大事。例えば、子どもに好きな色、大きさの画用紙を選べるようにすることで、子どもの意識は大きく違ってくる。 [シリオ28]
- 子どもが夢を抱けるよう、一人ひとりが主役になれる体験をさせてあげたい。自分の目で見て触って感じられる、そういう体験の場を大切にしていければいい。 [シリオ28]
- 小学生を対象に、観光漁船を始めたが、産業（漁業）を観光として見せるのは、教育としても大切である。地域の人たちも前向きになってきている。 [シリオ28]
- 未来では想像できない仕事が生まれているだろう。急速に変化する時代でも力強く生き抜いていける若者を育て、そういった若者が集まる地域にしていきたい。 [シリオ28]
- 職業を1つに絞るのではなく、色々な刺激を学生に与えればもっと夢は広がる。 [シリオ28]
- その地域でやりがいを持って働き、活躍している人を紹介するなど、働くこと、住むことにワクワクできることが伝わる環境をつくるべき。 [シリオ28]
- バイオマス発電に本気で取り組むべき。建材とチップの適切な割合を把握できるよう、山をデータ化して稼げることを示し、山に入る人を増やしていかないといけない。 [シリオ29]
- 親が地元の活動に一生懸命だという姿は、子供の成長にもよく、大切である。 [シリオ34]
- 学生の地域活動拠点において、大人と話す機会を得て意識や人生が変わる。 [シリオ34]
- スポーツで頑張っている選手は、地域が積極的に関わり、地域の愛情をたくさんもらっている。地域に誇りを持って発信してくれる子どもを一人でも多く増やしたい。 [シリオ34]